



# おおくぼ

学校教育目標 ゆめにむかって かしこく やさしく たくましく  
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和2年7月1日第4号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子119名女子112名 計231名

## 令和2年の夏

### 校長金子要一

7月になりました。今年は5月から全国各地で最高気温が25度以上の「夏日」や30度以上の「真夏日」が観測されました。これから夏は本番を迎えます。温暖化の影響で年々夏の暑さは厳しさを増し、14年前にできた35度以上の「猛暑日」という言葉も日常的に聞くようになりました。朝の天気予報で「猛暑」と聞くとあまりいい気はしません。

そんな夏本番を控えた6月初旬、校長室の空調機（冷房のみ。暖房機能はありません。）の試運転をしようとしてスイッチを入れたところ、動きません。何度か挑戦しましたがやはりだめです。業者さんに見ていただくと、故障しており、20年以上前の機械なので交換する部品も無いということでした。「新品のエアコンと入れ替えですね。」とは業者の方のお言葉ですが、今のところ何の連絡もありません。冷房の無い校長室で過ごしています。そんな私が言うのも説得力に欠けますが、この夏は特に熱中症に注意が必要です。

新型コロナウイルスの影響で、マスクを着ける生活がすっかり定着しました。そんななか、環境省や厚生労働省は、「マスク着用で心拍数や呼吸数が上昇して体に負担がかかる。また、体内に熱がこもりやすくなり、熱中症のリスクが例年より高まる」と注意を促しています。また、医師の団体は、「マスク内の湿度が上がってのどの渇きが感じにくくなり、自覚がないうちに脱水症状が進み、熱中症になりやすくなる、と注意を促しています。

予防策は、換気扇や窓の開放などによる換気や、エアコンによる室温管理、また、例年以上に水分補給をこまめにする、汗をかいて体温を下げられる体づくりも有効だそうです。さらに、マスク着用時は体に負担がかかる作業や運動を避け、屋外で人と2メートル以上の距離が確保できる場合は状況に応じてマスクを外すことも必要だということです。何と云っても、熱中症は命に関わる危険があります。暑さで息苦しい、気分が悪くなりそうと感じた時は一時的にマスクを外して熱中症対応を優先することが必要です。令和2年の夏は、新型コロナウイルスへの対応とともに、熱中症の対策も求められます。

今年、さいたま市の小中学校は、水泳の授業が中止になりました。また、1学期の終業式は例年より約10日遅い7月31日、2学期は、8月17日から始まります。今年の夏休みは約2週間です。そして、地域の夏祭りや盆踊りも中止のようです。1年生にとっては初めての夏休み、他の学年の児童、さらに教員にとっても令和2年の夏はいつもとは全く違う夏になりました。同じなのは暑さだけです。（校長室はどうなる？）

とは言え、誰にも予想がつかないこの状況です。決まったことは仕方ありませんし、誰にも文句は言えません。不便な生活を嘆いても何も変わることはなく、ただ気持ちが滅入るだけです。現実を受け止め、気持ちを切り替えて7月の学校生活を送り、そして、外出制限が緩んだ夏休みを楽しみましょう。ただし、気持ちのゆるみは禁物です。



厚生労働省のホームページから